

タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育（夜間主）**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月7
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201305600010E1	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー		
編集担当教員	林 徹		
授業担当教員名(科目責任者)	林 徹		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	林 徹		
科目分類	共通基礎科目、共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生（クラス等）	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス	thaya@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	本館627研究室		
担当教員TEL	095-820-6368		
担当教員オフィスアワー	講義中に案内します。		
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法（学習指導法）	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション（教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など）、プレゼンテーション（わかりやすい資料、話の構成、説得力など）、レポート（構成、文章表現など）により総合的に評価する。 （詳細は各クラスの担当教員の指示による）		
受講要件（履修条件）			

本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。
学習・教育目標	
備考（URL）	
備考（準備学習等）	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育（夜間主）**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月7
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201305600010E2	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー		
編集担当教員	森保 洋		
授業担当教員名(科目責任者)	森保 洋		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	森保 洋		
科目分類	共通基礎科目、共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生（クラス等）	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス	moriyasu@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	東南アジア研究所 313号室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	月曜日 午後6時～7時		
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法（学習指導法）	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション（教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など）、プレゼンテーション（わかりやすい資料、話の構成、説得力など）、レポート（構成、文章表現など）により総合的に評価する。 （詳細は各クラスの担当教員の指示による）		
受講要件（履修条件）			

本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。
学習・教育目標	
備考（URL）	
備考（準備学習等）	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育（夜間主）**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月7
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201305600010E3	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー		
編集担当教員	岩田 安晴		
授業担当教員名(科目責任者)	岩田 安晴		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	岩田 安晴		
科目分類	共通基礎科目、共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生（クラス等）	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス	連絡先等は履修登録者に通知済		
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法（学習指導法）	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション（教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など）、プレゼンテーション（わかりやすい資料、話の構成、説得力など）、レポート（構成、文章表現など）により総合的に評価する。 （詳細は各クラスの担当教員の指示による）		
受講要件（履修条件）			

本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。
学習・教育目標	
備考（URL）	
備考（準備学習等）	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育（夜間主）**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月7
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201305600010E4	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー		
編集担当教員	笹川 篤史		
授業担当教員名(科目責任者)	笹川 篤史		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	笹川 篤史		
科目分類	共通基礎科目、共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生（クラス等）	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス	sasagawa@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	経済学部東南アジア研究所318号室		
担当教員TEL	095-820-6331		
担当教員オフィスアワー	木曜日午後（事前にEメールで予約を取ってください。）		
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法（学習指導法）	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション（教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など）、プレゼンテーション（わかりやすい資料、話の構成、説得力など）、レポート（構成、文章表現など）により総合的に評価する。 （詳細は各クラスの担当教員の指示による）		
受講要件（履修条件）			

本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。
学習・教育目標	
備考（URL）	
備考（準備学習等）	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育（夜間主）**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月7
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201305600010E5	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー		
編集担当教員	林川 美由樹		
授業担当教員名(科目責任者)	林川 美由樹		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	林川 美由樹		
科目分類	共通基礎科目、共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生（クラス等）	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス	hmiyuki@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	本館610		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	月曜日18時から19時30分		
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法（学習指導法）	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション（教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など）、プレゼンテーション（わかりやすい資料、話の構成、説得力など）、レポート（構成、文章表現など）により総合的に評価する。 （詳細は各クラスの担当教員の指示による）		
受講要件（履修条件）			

本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。
学習・教育目標	
備考（URL）	
備考（準備学習等）	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育（夜間主）**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木6
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130561001050	科目番号	05610010
授業科目名	●情報処理入門		
編集担当教員	鈴木 斉		
授業担当教員名(科目責任者)	鈴木 斉		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	鈴木 斉		
科目分類	情報処理科目、情報処理科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経] 本館MS 1		
対象学生（クラス等）	経済学部夜間主コース		
担当教員Eメールアドレス	sigh@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	経済学部本館 631		
担当教員TEL	095-820-6372		
担当教員オフィスアワー	講義時間終了後、および、sigh@nagasaki-u.ac.jp にて受け付けています。		
授業のねらい	情報およびコンピュータに関する基礎理論や概念を理解した上で応用知識を備えさせるとともに、それらを自在に活用できる能力を身につけさせる。また、ネットワークを利用する際に考慮すべきセキュリティや情報倫理についても理解する。		
授業方法（学習指導法）	授業は、講義と演習を組み合わせる。授業時間内の操作演習や授業時間外の課題を通し講義内容の理解を深める。 eラーニングシステムWebClassを、授業資料や演習課題の提示、課題回収や返却、各種連絡等に活用する。		
授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・情報機器やネットワークの機能に関わる基本的事項を説明できる。 ・情報機器やネットワークを利用する際の倫理やセキュリティを十分に理解し、ネットワークを活用できる。 ・パソコンで情報を扱うための情報リテラシーが身につく。 ・インターネット（Web）、電子メール、プレゼンテーション、文書作成、表計算を基本的に理解し、操作方法や活用方法を説明できる。 ・情報資源・ネットワーク環境を利用して、情報を収集、分析、活用できる。 		
	原則として以下の内容に沿って授業を進めるが、進捗や理解度の状況に応じて若干の変更を行うことがあります。		
	回	内容	
	1	ガイダンス（授業方法の説明）、学習概要、授業で使用するコンピュータ環境、メール	
	2	情報の検索・活用と情報倫理 情報検索の仕組みと手法、情報の信頼性と信ぴょう性、情報倫理	
	3	情報セキュリティ 情報セキュリティとは、利用者・組織が取るべきセキュリティ対策	
	4	文書作成 (1) Microsoft Wordの操作、文字の書式、段落の書式 (1)、ページの設定	
	5	文書作成 (2) 段落の書式 (2)、オブジェクトの操作、表の作成	

授業内容	6	文書作成 (3) ワープロを用いる利点、作業環境の設定、スタイル
	7	表計算 (1) Microsoft Excelの機能、基本操作、数式、表の書式設定
	8	表計算 (2) セルの参照、関数、書式の設定
	9	表計算 (3) 条件分岐、データの検索、複数シートを使ったデータ処理
	10	表計算 (4) グラフ、表・グラフの印刷、アプリケーションの連携
	11	表計算 (5) データの並べ替え、データの抽出、集計、ピボットテーブル
	12	情報のデジタル化 情報のデジタル化とは、文字・音声・画像のデジタル化
	13	プレゼンテーション プレゼンテーションとは、資料作成上の留意点、PowerPointについて
	14	ネットワークの仕組み コンピュータのネットワーク、インターネットの構成
	15	Webページ作成 HTML、Webページの作成
	16	まとめ、試験
キーワード	情報リテラシー、情報倫理、情報セキュリティ、ネットワーク社会	
教科書・教材・参考書	講義資料を配布します。必要に応じて適宜追加資料や課題などをWebClassにて提示します。	
成績評価の方法・基準等	定期試験 30% コンピュータの動作原理、情報を扱う上で必要となる倫理観等が実際に理解できているかを筆記式の試験で確認します。 演習課題 60% 機器操作を伴う課題への取り組みや完成状況を基に判断します。 授業への参加状況 10% 作業指示に従わない場合や演習妨害等の行為を減点とします。	
受講要件 (履修条件)	特にありません。	
本科目の位置づけ	情報メディア基盤センターの端末を活用出来るようになる。また、専門課程での学習に役立てられるようコンピュータ関連の技術的な基礎、および、原理の概要を習得する。	
学習・教育目標	特にありませんが、コンピュータの操作に慣れていない場合は、毎日少しの時間でもキーボードに触れる時間をとることが望まれます。	
備考 (URL)		
備考 (準備学習等)		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育（夜間主）**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月7
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130566001050	科目番号	05660010
授業科目名	●人間と文化(破壊事故とヒューマンファクタ)		
編集担当教員	勝田 順一		
授業担当教員名(科目責任者)	勝田 順一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	勝田 順一		
科目分類	人文・社会科学科目、人文・社会科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経] 新館101講義室		
対象学生（クラス等）	夜間 安全で安心できる社会		
担当教員Eメールアドレス	katsuta@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	文教町キャンパス 工学部1号館5階 教官・ゼミ室504		
担当教員TEL	095-819-2599		
担当教員オフィスアワー	基本的には講義終了後講義室，またはmailで受け付ける。研究室に在室中は随時受け付ける。		
授業のねらい	<p>“ものづくり”は、建造するものが壊れないように、要求される性能を十分に発揮できるようにする必要がある。ところが、実際には、様々な“もの”が様々な原因で壊れ、時には悲惨な事故となることがある。</p> <p>講義では、様々な学部にも所属し、将来いろいろな分野に進む学生を対象に、“ものづくり”の成果や破壊事故の実情を講義とビデオにより紹介する。また、“もの”が壊れる条件についてわかりやすく説明する。</p> <p>さらに、近年、事故発生に人のミスが関わっているとの多くの指摘がある。ヒューマン・エラーについて体験させ、人のミスを防ぐための安全確保策の考え方について紹介することを目的とする。</p>		
授業方法（学習指導法）	<p>講義は、パワーポイントによる座学での解説とビデオでの事例の視聴によって行う。自主学習としてレポートを課す。また、後半のヒューマン・ファクタの項目では、学生自身による体験を行う。</p> <p>講義中の受講態度や遅刻については、特に成績評価に反映させるので、真摯な態度での受講を求める。</p>		
授業到達目標	この講義によって、実際の「ものづくり」に携わらなくても、新聞等での事故報道に対する理解が深まること、学生の身近な生活の中で利用可能なヒューマン・エラー対策の基礎的考察ができることを到達目標とする。		
	<p>“ものづくり”の手順，“もの”が壊れる原因について講義した上で、破壊事故の事例をビデオで視聴する。</p> <p>事例によっては、講義室で簡単な実験で事故原因を体験する。</p> <p>事故には、個人の知識不足や不注意だけでなく、ヒューマン・ファクタや組織の原因が大きく影響することを理解するために、簡単なヒューマン・エラーを起こす体験を行う。</p> <p>これらのことによって、誰でもが、一生懸命やっても、優秀であっても、陥る可能性があるミ</p>		

授業内容	<p>スについて,実態と対策を考える。</p> <p>第 1 回 講義の概論, 講義の目的,"ものづくり"の成果 第 2 回 "ものづくり"の成果と破壊事故分析 第 3 回 力に対する材料の限界, 破壊とは 第 4 回 最近の事故例における発生の背景 第 5 回 事故例と事故分析 第 6 回 工学的安全システムの有効・無効 第 7 回 "ものづくり"における『安全』とは 第 8 回 "ものづくり"における安心と市民の『安心』とは 第 9 回 技術者の責任と市民の責任 第 10 回 人が犯すミスとその背景, および体験 第 11 回 想定される失敗と想定されない失敗, および体験 第 12 回 思い込みと錯覚による安全喪失 第 13 回 外部情報と脳の受容情報 第 14 回 人の理解と脳の理解, その行動 第 15 回 安心文化の醸成のためには</p>
キーワード	破壊事故, 医療事故, 組織事故, 安心・安全, ヒューマン・ファクタ, 脳科学, 認知科学
教科書・教材・参考書	教科書は用いず, 教員作成の講義資料(プロジェクト), ビデオ, 配布資料, 実験資料によって行う。 必要に応じて, 参考文献を講義中に紹介する。
成績評価の方法・基準等	提示されたテーマに対する自身で考えたことを主とするレポートのみによって100%評価する。定期試験は実施しない。未提出の課題やレポートがある場合は, 不合格とする。課題レポートでは, 自分自身の多面的な考察, 意見, 感想のみを評価し, 講義内容を記した部分は評価対象外とする。レポートでの得点で合格に達した者については, 受講態度や自主学習を考慮して, 成績を報告する。
受講要件(履修条件)	欠席は認めず, 全回出席を原則とする。やむを得ない理由がある場合のみ, 個別指導を行う。なお, 高等学校までの物理学の受講の有無は問わない。
本科目の位置づけ	一般教養科目として, 自然科学分野の知識を身に付け, 様々な状況や立場での自身の行動を創造的に考える能力を養成するための科目である。
学習・教育目標	一般教養科目として, 自然科学分野の知識を身に付け, 様々な状況や立場での自身の行動を創造的に考える能力を養成する。
備考(URL)	
備考(準備学習等)	準備は必要ないが, 講義後のレポート作成に重点をおくことを求める。



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育（夜間主）**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	月7
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130566005050	科目番号	05660050
授業科目名	●社会と歴史(社会科学からみた安全・安心)		
編集担当教員	松本 睦樹		
授業担当教員名(科目責任者)	松本 睦樹		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	松本 睦樹		
科目分類	人文・社会科学科目、人文・社会科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経] 本館11講義室		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	mutuki@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	経済学部本館5階511		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	講義終了後の時間帯		
授業のねらい	歴史上よく知られる現象や出来事のうち幾つかを取り上げ、「安全・安心」という視点から考察する。		
授業方法（学習指導法）	プロジェクターを活用した口述の講義を60分間行い、次にその内容を30分間でレポートにまとめてもらう。本講義のあり方は、他の講義とかなり性格を異にし、受講者には毎回のレポート作成に時間とエネルギーを割いてもらうことになる。これは、1つには講義を真剣に聴き、かつ理解するために、2つには理解した内容をまとめる訓練のために必要なものである。また、講義時間中に小テスト（ノート持ち込み可）を実施する。		
授業到達目標	人間の歴史がある意味で「安全と安心」を求めるそれであったことを理解する。		
授業内容	社会経済の発展は、一方で個々人の日常生活や国家間のレベルにおいて多様な問題を生み出し、同時にそれを解決してきた。本講義では、1つは「安全・安心」を求める個人が社会集団化した現象を、いま1つは国家間の紛争を解決する国際機関が発足した経緯をテーマに、主として経済史的視角から歴史現象を学ぶ。		
	回	内容	
	1	講義の方法とルール、評定方法などについての説明	
	2	社会集団化（多民族国家としてのインド）	
	3	同（社会集団化とカースト）	
	4	同（カーストの概要）	
	5	同（カーストの事例）	
	6	同（カーストの流動化）	
	7	同（カースト間の紛争とその解決）	
8	同（経済発展とカースト）		

	9	国際協調（国際紛争の顛末）
	10	同（国際協調の試み）
	11	同（国際協調の挫折）
	12	同（国ごとの対応とその限界）
	13	同（世界経済の破綻）
	14	同（第2次大戦の教訓）
	15	同（国際機関の成立）
	16	
キーワード		
教科書・教材・参考書	使用しない	
成績評価の方法・基準等	小テストの成績を100点満点で計算し、それに毎回のレポートの成績や講義への参加状況などを加味する（定期試験は行わない）。なお、出席すべき講義回数の3分の2以上を出席することが、単位認定の必要条件である。	
受講要件（履修条件）	世界史の知識を有することが望ましい。	
本科目の位置づけ		
学習・教育目標	人類の歴史がある意味で「安全・安心」を求めるそれであったことを理解する。	
備考（URL）		
備考（準備学習等）	(1) 第1回の講義では本講義についてのルールや評定計算の詳細など重要な点を説明するので、注意すること。 (2) 本講義では15分を超えての遅刻は認めない。	



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育（夜間主）**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月6
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130567005050	科目番号	05670050
授業科目名	●生命の科学(医療現場の安全と安心)		
編集担当教員	林田 秀明		
授業担当教員名(科目責任者)	林田 秀明		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	林田 秀明, 松本 武浩, 濱野 真二郎, 安田 二郎		
科目分類	人間科学科目、人間科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経] 新館101講義室		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	hide@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	口腔保健学		
担当教員TEL	095-819-7663		
担当教員オフィスアワー	月曜日16:30～		
授業のねらい	国内・外での病原性感染症発祥の歴史や国際伝播、情報共有について理解を深め、認識するとともに、国際人として国際社会で活躍するために、自ら医療の安全、安心の意識を育てる。		
授業方法（学習指導法）	基本的に講義形式とする。 内容により参加型の討論形式などを行う。		
授業到達目標	①国内・外で注目されている感染症および生体防御の基礎について理解する。 ②医療現場における安全と安心について理解する。 ③歯科医療における安全と安心について理解する。		
授業内容	回	内容	
	1	新興感染症出現の背景と致死性の高いウイルス性出血熱に関する基礎知識(4/8)	
	2	テレビや映画の中の感染症：正しく伝えられているか？ (4/15)	
	3	病気を起こす原虫とは？(4/22)	
	4	世界的に重大な感染症マラリアに関する基礎知識(5/13)	
	5	ネグレクテッド・トロピカル・ディーズ（顧みられない熱帯病）：「死なないからと放っておかれてはたまらない」1 (5/20)	
	6	ネグレクテッド・トロピカル・ディーズ（顧みられない熱帯病）：「死なないからと放っておかれてはたまらない」2 (5/27)	
	7	細菌の感染の仕組み(6/3)	
	8	地球規模のピロリ菌感染(6/10)	
	9	「防御は最大の攻撃？—ヒトの免疫の話」 どうやってヒトはバイキンを追い払ったり負	

	けたりするのか？(6/17)
10	「防御は最大の攻撃？—ヒトの免疫の話」どうやってヒトはバイキンを追い払ったり負けたりするのか？(熱研)(6/24)
11	医療機関における安全管理(7/1)
12	医療連携における安全・安心(7/8)
13	診療録管理を通じた安全・安心の医療の提供(7/22)
14	歯科における標準予防策(7/23)
15	歯科治療における偶発症とその防止策(7/29)
16	
キーワード	医療現場・感染症・国際伝播・情報共有
教科書・教材・参考書	プリントの配布とスライドによる講義なので教科書・教材・参考書等特にありません
成績評価の方法・基準等	講義中の小テストおよびレポート(50点)、講義終了後のレポート(50点)計100点満点で60点以上の者を合格とする。
受講要件(履修条件)	特になし
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育（夜間主）**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 6
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130567007050	科目番号	05670070
授業科目名	●人間と環境(安全と安心の街づくり)		
編集担当教員	橋本 健夫		
授業担当教員名(科目責任者)	橋本 健夫		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	橋本 健夫, 植木 とみ子		
科目分類	人間科学科目、人間科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経] 新館 101 講義室		
対象学生（クラス等）	経済（夜間主）		
担当教員Eメールアドレス	hasimoto@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	橋本 健夫 教育学部 335号室		
担当教員TEL	橋本 健夫 095-819-2338 090-2587-5670		
担当教員オフィスアワー	お昼の時間（12：00-12：50）予め在室を確認してください。		
授業のねらい	豊かな生活環境とは何か、またそれをどのように創るかを考える		
授業方法（学習指導法）	ディスカッション方式		
授業到達目標	真に民主政治を担える、自立した個人を育成する		
授業内容	回	内容	
	1	防災 平成11年福岡大水害の経験から	
	2	防災 平成17年福岡県西方沖大地震の経験から	
	3	防犯 子どもを守れ！	
	4	防犯 環境浄化運動	
	5	防犯 警察協議会会長の経験を通して、暴力団対策など	
	6	環境・街づくり ユニバーサルデザインの街	
	7	環境・街づくり 水資源をどう守るか	
	8	環境・街づくり ごみ減量	
	9	子育て・教育 母親の孤立を防ぐ	
	10	子育て・教育 地域子ども育成事業	
	11	子育て・教育 「学校はまち、まちは学校」	
	12	高齢者・障がい者 弱者支援とは	
	13	高齢者・障がい者 施設の適正配置	
	14	高齢者・障がい者 地域での共生	

	15	より豊かな生活環境とは 住まい方、文化を考える, だれが、どのように創るか
	16	定期試験
キーワード		
教科書・教材・参考書		植木とみ子著「市役所の女」海鳥社
成績評価の方法・基準等		課題30%, 授業参加度30%, 試験40%
受講要件(履修条件)		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育（夜間主）**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 7
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130568009050	科目番号	05680090
授業科目名	●地球と宇宙の科学(水環境の安全と安心)		
編集担当教員	田邊 秀二		
授業担当教員名(科目責任者)	田邊 秀二		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	田邊 秀二, 夢田 彰秀		
科目分類	自然科学科目、自然科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経] 新館 101 講義室		
対象学生 (クラス等)	経済 (夜間主)		
担当教員Eメールアドレス	s-tanabe@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	工学研究科 (総合教育研究棟 7F709)		
担当教員TEL	095-819-2659		
担当教員オフィスアワー	12:00~12:50 (事前にメールで連絡すること)		
授業のねらい	日本は地球の温帯地域にあり、四季を通じて降雨があるため水には恵まれてきた。しかし、途上国においては、安全な飲料水の確保は喫緊の問題であり、日本に限らず、先進国の水処理技術の導入が急がれている。この講義では、工学研究科の水環境技術者育成に関わる教員により、水環境に関する技術の現状、問題点を整理し、日本の持つ先進的なモニタリング技術、アセスメント、膜や生物処理を使った最先端水処理技術などを理解することで、普段気づかない水環境の安全・安心について考える。		
授業方法 (学習指導法)	講義を基本とする。必要に応じてアクティブラーニング手法を取り入れる。		
授業到達目標	水環境に関する問題について解説できる。水環境のモニタリング技術、廃棄物問題、水処理技術について説明できる。		
授業内容	回	内容	
	1	オリエンテーション：有明海や水俣湾における水環境の現状	
	2	水環境モニタリング技術について	
	3	水道と水源池	
	4	水源を守る	
	5	日本国内外の廃棄物処理の現状から起こる、水問題について(1)	
	6	日本国内外の廃棄物処理の現状から起こる、水問題について(2)	
	7	化学薬品、重金属などの危険物質の現状と対策について	
	8	世界の水環境問題と膜分離技術の貢献について	
	9	＜水を造る＞膜分離技術概論－現状と展望－	
	10	＜水を再生する＞膜分離技術概論－現状と展望－	

	11	水環境生態系の保全と修復
	12	環境シミュレーションの方法と数値計算の原理
	13	コンピュータによる数値計算の手続き
	14	環境問題へのシミュレーションの応用例
	15	水環境の安全・安心に関する総括と評価試験
	16	評価結果に対する指導
キーワード	水、膜、廃棄物、水環境、分離、生物処理、シミュレーション	
教科書・教材・参考書	教科書は使用しない。必要があればプリントを配付し、参考書を紹介する。	
成績評価の方法・基準等	講義への積極的参加(40%)、レポート課題の評価(60%)の総合点で評価する。	
受講要件(履修条件)	特になし	
本科目の位置づけ	JABEE基準の(a)および(b)に相当する	
学習・教育目標	自主的探求能力の養成、多様性の理解、社会貢献への意欲の啓発	
備考(URL)		
備考(準備学習等)		

